

## 平成30年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

平成31年3月29日

報告者	学科名	看護学科	職名	教授	氏名	住吉和子
研究課題	糖尿病患者のセルフケアを向上させるための看護システム構築に関する取り組み					
研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担		
	代表	住吉和子	看護学科・教授	成人看護学	統括・調査	
	分担者	高林範子 四方賢一 福井トシ子 清水安子 池尻好美	看護学科・助教 岡山大学病院・教授 日本看護協会・会長 大阪大学・教授 協会けんぽ岡山支部	基礎看護学 糖尿病専門医 看護管理 成人看護学 保健指導	糖尿病相談室 介入方法アドバイス システム構築アドバイス セルフケア評価 受診推奨、医療連携	
研究実績の概要	<p>岡山県の糖尿病看護認定看護師を対象として、自施設以外に出張して、患者教育を提供することが可能か、出張のために必要な条件、提供できる教育内容などを尋ねた。さらに総社市の教育システムをもたない医療施設を対象に、他施設の糖尿病看護認定看護師の出張を希望するか、必要としている教育内容、連携の在り方などについて調査を実施した。総社市役所健康医療課の協力もあり、総社市内の3施設が糖尿病看護認定看護師の出張を受け入れたいと希望があった。ただし、看護教育での保険点数が、現段階では取れないこと、看護師の出張に伴う依頼方法や旅費や人件費に関して、施設ごとの打ち合わせが必要である。</p> <p>糖尿病看護認定看護師を対象としたアンケート調査から、施設外への出張に必要な要件、提供可能な教育内容が明らかになった。一方、糖尿病看護を専門とする看護師がいない医療施設を対象に、看護師の出張を受け入れるかについて調査を実施した。出張を受け入れる希望がある施設と条件などが明らかになった。</p> <p>調査の結果をもとに、施設ごと条件を調整して、実際に患者教育が提供できる環境を整える準備ができた。「出張システム」を岡山県及び看護協会の協力を得ることで、より多くの施設が参加できることが予測できるため、岡山県と看護協会への協力を要請していく予定である。近い将来、看護協会に登録した看護師が看護協会から派遣されるというシステムを県内で構築することで、専門医不在の施設に通院する糖尿病患者にも教育を受ける機会が得られ、患者のセルフケア向上につながることを期待できる。</p>					